

【概要】

平成27年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査（北海道）【確定値】

※ 本調査は、平成27年度間の北海道の公立学校における暴力行為、いじめ、不登校、中途退学の状況を平成28年度に調査し、公表するものです。また、本数値には、札幌市立学校も含まれています。

■基本となる学校数及び児童生徒数

	公立学校総数			在籍児童生徒数		
	平成26年度	平成27年度	前年度比	平成26年度	平成27年度	前年度比
小学校	1,120校	1,099校	▲21校	254,766人	250,667人	▲4,099人
中学校	621校	614校	▲7校	132,782人	131,908人	▲874人
高等学校	239校	237校	▲2校	108,360人	105,520人	▲2,840人
小・中・高等学校の計	1,980校	1,950校	▲30校	495,908人	488,095人	▲7,813人
特別支援学校	65校	64校	▲1校	5,214人	5,417人	203人
合計	2,045校	2,014校	▲31校	501,122人	493,512人	▲7,610人

※平成27年5月1日現在の数値である。

ただし、高等学校在籍児童生徒数には、高等学校通信制課程の在籍者数(26年度は3,747人、27年度は3,505人)も計上されている。

※いじめにおける高等学校の学校総数は、併置校を全日制、定時制、通信制それぞれを1校で計上し、271校となる。

■結果の概要

1 公立小・中学校、高等学校の暴力行為の発生件数

	平成26年度		平成27年度		前年度比	
	発生件数	1,000人当たりの発生件数	発生件数	1,000人当たりの発生件数	発生件数	1,000人当たりの発生件数
小学校	60件	0.2	432件	1.7	372件	1.5
中学校	668件	5.0	546件	4.1	▲122件	▲0.9
高等学校	228件	2.1	191件	1.8	▲37件	▲0.3
合計	956件	1.9	1,169件	2.4	213件	0.5

2 公立小・中学校、高等学校、特別支援学校のいじめの認知件数

	平成26年度		平成27年度		前年度比	
	認知件数	1,000人当たりの認知件数	認知件数	1,000人当たりの認知件数	認知件数	1,000人当たりの認知件数
小学校	1,036件	4.1	3,486件	13.9	2,450件	9.8
中学校	1,607件	12.1	1,588件	12.0	▲19件	▲0.1
高等学校	464件	4.3	429件	4.1	▲35件	▲0.2
特別支援学校	25件	4.8	34件	6.3	9件	1.5
合計	3,132件	6.2	5,537件	11.2	2,405件	5.0

3 公立小・中学校の不登校児童生徒数

	平成26年度		平成27年度		前年度比	
	不登校児童生徒数	1,000人当たり	不登校児童生徒数	1,000人当たり	不登校児童生徒数	1,000人当たり
小学校	812人	3.2	942人	3.8	130人	0.6
中学校	3,447人	26.0	3,653人	27.7	206人	1.7
合計	4,259人	11.0	4,595人	12.0	336人	1.0

4 公立高等学校の不登校生徒数（通信制高校の在籍者を除く。）

	平成26年度		平成27年度		前年度比	
	不登校生徒数	1,000人当たり	不登校生徒数	1,000人当たり	不登校生徒数	1,000人当たり
不登校生徒数	856人		707人		▲149人	
1,000人当たり	8.2		6.9		▲1.3	

5 公立高等学校の中途退学者数

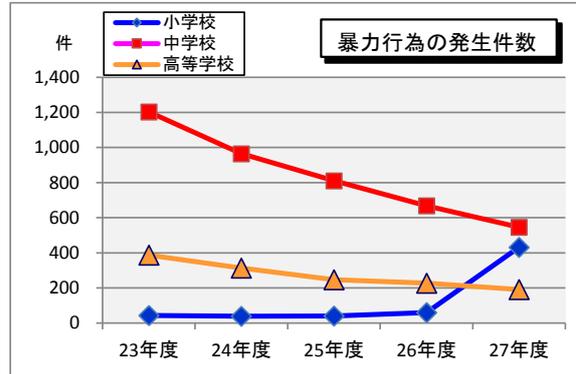
	平成26年度		平成27年度		前年度比	
	中途退学者数	中途退学率	中途退学者数	中途退学率	中途退学者数	中途退学率
中途退学者数	1,465人		1,648人		183人	
中途退学率	1.4%		1.6%		0.2	

公立小・中学校、高等学校の暴力行為

○平成25年度から、「暴力行為」については、高等学校通信制課程を調査対象として含めています。

1 暴力行為の発生件数の推移

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
小学校	44	39	40	60	432
中学校	1,203	965	811	668	546
高等学校	387	313	247	228	191
計	1,634	1,317	1,098	956	1,169



<経年変化>

すべての校種において、平成23年度から減少傾向にあったが、小学校のみ、25年度から増加傾向となっている。

<前年度との比較>

- 小学校 ~前年度に比べ、372件増加している。
- 中学校 ~前年度に比べ、122件減少している。
- 高等学校 ~前年度に比べ、37件減少している。
- 全体 ~前年度に比べ、213件増加している。

【暴力行為の定義】「暴力行為」を「自校の児童生徒が、故意に有形力（目に見える物理的な力）を加える行為」として調査。本調査においては、「当該暴力行為によってけががあるかないかといったことや、けがによる病院の診断書、被害者による警察への被害届の有無などにかかわらず」、暴力行為に該当するものをすべて対象とすることとしている。

2 学校種別暴力行為の発生学校数及び発生件数

		平成27年度			平成26年度		
		発生学校数		発生件数	発生学校数		発生件数
		学校数	発生率		学校数	発生率	
小学校	学校管理下	27校	2.5%	236件	12校	1.1%	54件
	学校管理下以外	14校	1.3%	196件	5校	0.4%	6件
	小計	—	—	432件	—	—	60件
中学校	学校管理下	91校	14.8%	498件	100校	16.1%	593件
	学校管理下以外	29校	4.7%	48件	41校	6.6%	75件
	小計	—	—	546件	—	—	668件
高等学校	学校管理下	83校	35.0%	171件	86校	36.0%	187件
	学校管理下以外	14校	5.9%	20件	28校	11.7%	41件
	小計	—	—	191件	—	—	228件
合計	学校管理下	201校	10.3%	905件	198校	10.0%	834件
	学校管理下以外	57校	2.9%	264件	74校	3.7%	122件
	小計	—	—	1,169件	—	—	956件

※発生率＝（発生学校数／公立学校総数）×100

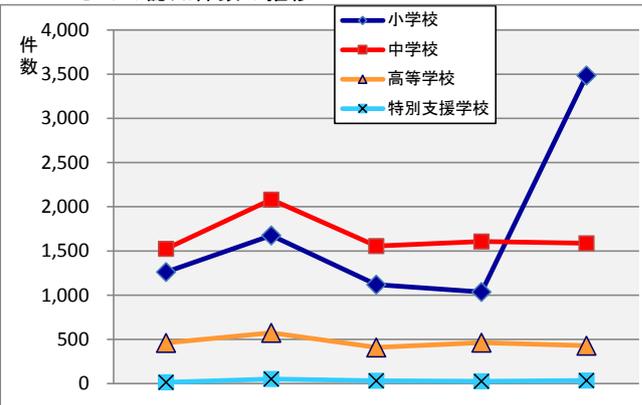
3 暴力行為の種別発生学校数及び発生件数

		平成27年度		平成26年度	
		発生学校数	発生件数	発生学校数	発生件数
対教師暴力	小学校	13校	74件	5校	20件
	中学校	30校	96件	36校	116件
	高等学校	19校	24件	17校	19件
	合計	62校	194件	58校	155件
生徒間暴力	小学校	28校	216件	9校	23件
	中学校	103校	317件	108校	382件
	高等学校	78校	130件	98校	155件
	合計	209校	663件	215校	560件
対人暴力	小学校	4校	76件	0校	0件
	中学校	11校	20件	14校	17件
	高等学校	2校	2件	11校	12件
	合計	17校	98件	25校	29件
器物損壊	小学校	8校	66件	3校	17件
	中学校	27校	113件	45校	153件
	高等学校	25校	35件	27校	42件
	合計	60校	214件	75校	212件

公立小・中学校、高等学校、特別支援学校のいじめ

○平成25年度から、「いじめ」については、高等学校通信制課程を調査対象として含めています。

1 いじめの認知件数の推移



※本調査におけるいじめの定義

個々の行為が「いじめ」に当たるか否かの判断は、表面的・形式的に行うことなく、いじめられた児童生徒の立場に立って行うものとする。

「いじめ」とは、「児童生徒に対して、当該児童生徒が在籍する学校に在籍している等当該児童生徒と一定の人的関係のある他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものも含む。）であって、当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているもの。」とする。なお、起こった場所は学校の内外を問わない。

「いじめ」の中には、犯罪行為として取り扱われるべきと認められ、早期に警察に相談することが重要なものや、児童生徒の生命、身体又は財産に重大な被害が生じるような、直ちに警察に通報することが必要なものが含まれる。

これらについては、教育的な配慮や被害者の意向への配慮の上で、早期に警察に相談・通報し、警察と連携した対応を取ることが必要である。

<経年変化>

いじめの認知件数は、20年度以降、減少と増加を繰り返しており、校種別では、小学校・特別支援学校は前年度に比べ増加したが、中学校・高等学校は前年度を下回る認知件数となった。

<前年度との比較>

- 小学校 ~前年度に比べ、2450件増加している。
- 中学校 ~前年度に比べ、19件減少している。
- 高等学校 ~前年度に比べ、35件減少している。
- 特別支援学校 ~前年度に比べ、9件増加している。
- 全体 ~前年度に比べ、2405件増加している。

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
小学校	1,261 4.7	1,676 6.4	1,119 4.3	1,036 4.1	3,486 13.9
中学校	1,525 10.9	2,082 15.2	1,557 11.6	1,607 12.1	1,588 12.0
高等学校	461 4.1	574 5.3	409 3.7	464 4.3	429 4.1
特別支援学校	14 2.8	51 10.0	33 6.4	25 4.8	34 6.3
計	3,261 6.2	4,383 8.5	3,118 6.1	3,132 6.2	5,537 11.2

※ 上段は認知件数、下段は1,000人当たりの認知件数

2 学校種別いじめの認知学校数

	認知学校数			
	学校数		認知率	
	平成27年度	平成26年度	平成27年度	平成26年度
小学校	355校	277校	32.4%	24.7%
中学校	307校	301校	50.0%	48.5%
高等学校	138校	123校	50.9%	45.1%
特別支援学校	18校	14校	28.1%	21.5%

※ 認知率＝（認知学校数／公立学校総数）×100

3 いじめの解消状況

	いじめが解消しているもの(解消率)	
	平成27年度	平成26年度
小学校	97.0%	94.2%
中学校	96.0%	94.6%
高等学校	99.8%	98.3%
特別支援学校	97.1%	100.0%
計	96.9%	95.1%

4 いじめ発見のきっかけ (12項目から一つの項目)

	順位	いじめ発見のきっかけ			
		平成27年度	平成26年度		
小学校	①	アンケート調査など学校の取組により発見	65.7%	アンケート調査など学校の取組により発見	61.1%
	②	本人からの訴え	22.0%	当該児童生徒（本人）の保護者からの訴え	13.2%
	③	学級担任が発見	5.2%	本人からの訴え	10.8%
	④	当該児童生徒（本人）の保護者からの訴え	4.4%	学級担任が発見	9.0%
	⑤	保護者（本人の保護者を除く）からの情報	1.2%	保護者（本人の保護者を除く）からの情報	2.7%
	⑥	児童生徒（本人を除く）からの情報	0.8%	児童生徒（本人を除く）からの情報	2.0%
	⑦	学級担任以外の教職員が発見	0.3%	学級担任以外の教職員が発見	0.8%
	⑧	学校以外の関係機関（相談機関を含む）からの情報	0.2%	学校以外の関係機関（相談機関を含む）からの情報	0.3%
	⑨	養護教諭が発見	0.1%	養護教諭が発見	0.1%
	⑩	地域の住民からの情報	0.03%	スクールカウンセラー等の外部の相談員が発見	0.0%
	⑪	その他（匿名による投書など）	0.03%	地域の住民からの情報	0.0%
	⑫	スクールカウンセラー等の外部の相談員が発見	0.0%	その他（匿名による投書など）	0.0%
中学校	①	アンケート調査など学校の取組により発見	56.6%	アンケート調査など学校の取組により発見	58.1%
	②	本人からの訴え	19.5%	本人からの訴え	18.5%
	③	当該児童生徒（本人）の保護者からの訴え	9.9%	学級担任が発見	9.5%
	④	学級担任が発見	8.0%	当該児童生徒（本人）の保護者からの訴え	8.2%
	⑤	児童生徒（本人を除く）からの情報	1.8%	学級担任以外の教職員が発見	2.3%
	⑥	保護者（本人の保護者を除く）からの情報	1.8%	児童生徒（本人を除く）からの情報	1.2%
	⑦	学級担任以外の教職員が発見	1.6%	保護者（本人の保護者を除く）からの情報	1.1%
	⑧	学校以外の関係機関（相談機関を含む）からの情報	0.3%	養護教諭が発見	0.4%
	⑨	養護教諭が発見	0.3%	スクールカウンセラー等の外部の相談員が発見	0.2%
	⑩	スクールカウンセラー等の外部の相談員が発見	0.1%	地域の住民からの情報	0.2%
	⑪	地域の住民からの情報	0.1%	学校以外の関係機関（相談機関を含む）からの情報	0.2%
	⑫	その他（匿名による投書など）	0.0%	その他（匿名による投書など）	0.1%

	順位	いじめ発見のきっかけ			
		平成27年度		平成26年度	
高等学校	①	アンケート調査など学校の取組により発見	69.2%	アンケート調査など学校の取組により発見	63.1%
	②	本人からの訴え	17.5%	本人からの訴え	20.3%
	③	当該児童生徒（本人）の保護者からの訴え	4.9%	当該児童生徒（本人）の保護者からの訴え	6.0%
	④	学級担任が発見	2.6%	学級担任が発見	5.0%
	④	学級担任以外の教職員が発見	2.6%	学級担任以外の教職員が発見	2.6%
	⑥	児童生徒（本人を除く）からの情報	1.9%	児童生徒（本人を除く）からの情報	2.4%
	⑦	養護教諭が発見	0.7%	養護教諭が発見	0.2%
	⑧	保護者（本人の保護者を除く）からの情報	0.5%	スクールカウンセラー等の外部の相談員が発見	0.2%
	⑨	学校以外の関係機関（相談機関を含む）からの情報	0.2%	保護者（本人の保護者を除く）からの情報	0.2%
	////	スクールカウンセラー等の外部の相談員が発見	0.0%	地域の住民からの情報	0.0%
	////	地域の住民からの情報	0.0%	学校以外の関係機関（相談機関を含む）からの情報	0.0%
////	その他（匿名による投書など）	0.0%	その他（匿名による投書など）	0.0%	
特別支援学校	①	アンケート調査など学校の取組により発見	52.9%	アンケート調査など学校の取組により発見	56.0%
	②	本人からの訴え	20.6%	本人からの訴え	16.0%
	③	当該児童生徒（本人）の保護者からの訴え	11.8%	学級担任が発見	12.0%
	④	学級担任以外の教職員が発見	5.9%	児童生徒（本人を除く）からの情報	8.0%
	④	児童生徒（本人を除く）からの情報	5.9%	学級担任以外の教職員が発見	4.0%
	⑥	学級担任が発見	2.9%	当該児童生徒（本人）の保護者からの訴え	4.0%
	////	養護教諭が発見	0.0%	養護教諭が発見	0.0%
	////	スクールカウンセラー等の外部の相談員が発見	0.0%	スクールカウンセラー等の外部の相談員が発見	0.0%
	////	保護者（本人の保護者を除く）からの情報	0.0%	保護者（本人の保護者を除く）からの情報	0.0%
	////	地域の住民からの情報	0.0%	地域の住民からの情報	0.0%
	////	学校以外の関係機関（相談機関を含む）からの情報	0.0%	学校以外の関係機関（相談機関を含む）からの情報	0.0%
////	その他（匿名による投書など）	0.0%	その他（匿名による投書など）	0.0%	

5 いじめの態様（9項目から複数選択）

	順位	いじめの態様			
		平成27年度		平成26年度	
小学校	①	冷やかしからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。	65.7%	冷やかしからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。	72.6%
	②	軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする。	28.3%	軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする。	32.3%
	③	仲間はずれ、集団による無視をされる。	23.6%	仲間はずれ、集団による無視をされる。	23.2%
	④	金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。	9.8%	金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。	5.0%
	⑤	ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする。	7.7%	嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。	4.3%
	⑥	その他	4.1%	ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする。	3.7%
	⑦	嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。	2.9%	パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷やいやなことをされる。	1.3%
	⑧	パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷やいやなことをされる。	0.8%	その他	1.2%
	⑨	金品をたかられる。	0.03%	金品をたかられる。	0.4%
中学校	①	冷やかしからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。	77.9%	冷やかしからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。	75.7%
	②	仲間はずれ、集団による無視をされる。	17.1%	仲間はずれ、集団による無視をされる。	19.4%
	③	軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする。	15.0%	軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする。	18.0%
	④	パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷やいやなことをされる。	8.3%	パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷やいやなことをされる。	8.3%
	⑤	金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。	5.4%	金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。	7.3%
	⑥	嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。	4.0%	ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする。	3.4%
	⑦	ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする。	2.5%	嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。	2.6%
	⑧	その他	1.6%	その他	1.9%
	⑨	金品をたかられる。	0.3%	金品をたかられる。	0.7%
高等学校	①	冷やかしからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。	70.9%	冷やかしからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。	71.8%
	②	パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷やいやなことをされる。	21.4%	パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷やいやなことをされる。	16.4%
	③	仲間はずれ、集団による無視をされる。	16.3%	仲間はずれ、集団による無視をされる。	15.5%
	④	軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする。	10.5%	軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする。	13.1%
	⑤	金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。	7.7%	金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。	8.2%
	⑥	嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。	5.1%	その他	6.7%
	⑦	その他	4.4%	嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。	5.2%
	⑧	ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする。	2.8%	ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする。	2.8%
	⑨	金品をたかられる。	0.7%	金品をたかられる。	1.3%
特別支援学校	①	冷やかしからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。	64.7%	冷やかしからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。	56.0%
	②	軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする。	29.4%	軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする。	32.0%
	③	金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。	8.8%	金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。	16.0%
	③	パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷やいやなことをされる。	8.8%	仲間はずれ、集団による無視をされる。	12.0%
	⑤	嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。	5.9%	嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。	12.0%
	⑤	その他	5.9%	ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする。	8.0%
	⑦	ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする。	2.9%	金品をたかられる。	8.0%
	⑦	金品をたかられる。	2.9%	その他	8.0%
	////	仲間はずれ、集団による無視をされる。	0.0%	パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷やいやなことをされる。	4.0%

公立小・中学校の不登校

1 公立小・中学校における理由別長期欠席者数（上段）と1,000人当たりの理由別長期欠席者数（下段）

	平成27年度					平成26年度				
	不登校	経済的理由	病気	その他	計	不登校	経済的理由	病気	その他	計
小学校	942	0	865	467	2,274	812	1	1,021	471	2,305
1,000人当たり	3.8	0.0	3.5	1.9	9.1	3.2	0.0	4.0	1.8	9.0
中学校	3,653	0	795	193	4,641	3,447	0	903	258	4,608
1,000人当たり	27.7	0.0	6.0	1.5	35.2	26.0	0.0	6.8	1.9	34.7
計	4,595	0	1,660	660	6,915	4,259	1	1,924	729	6,913
1,000人当たり	12.0	0.0	4.3	1.7	18.1	11.0	0.0	5.0	1.9	17.8

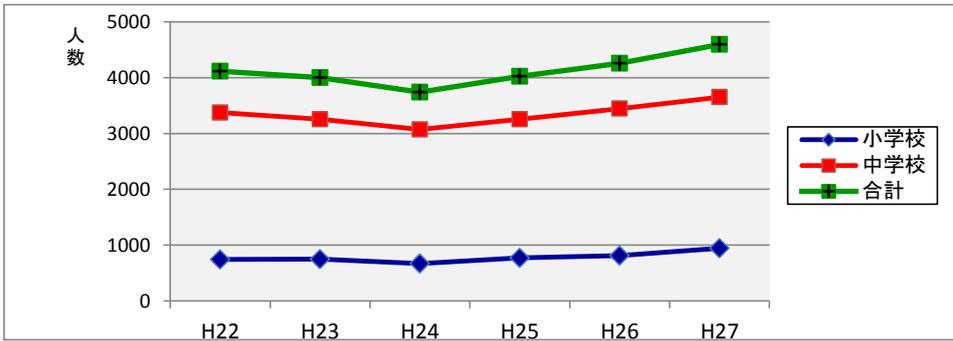
※年度間に連続又は断続して30日以上欠席した児童生徒数を理由別に調査。（平成26年度の結果は、学校基本調査による。）

- 小学校 ～昨年度に比べ、130人増加（812→942）している。
- 中学校 ～昨年度に比べ、206人増加（3,447→3,653）している。
- 全体 ～昨年度に比べ、336人増加（4,259→4,595）している。

2 不登校の経年変化

(1) 不登校の状況

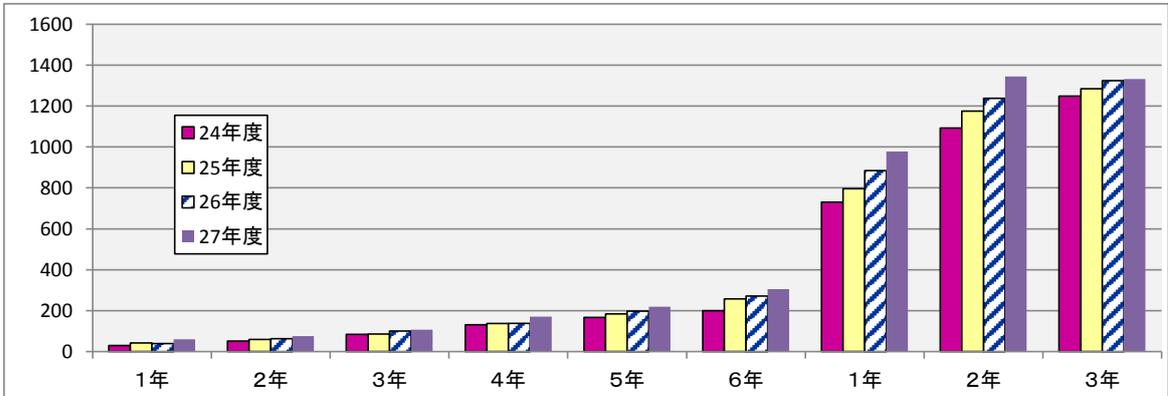
① 年度間に通算30日以上欠席した児童生徒のうち、不登校を理由とする児童生徒数の推移



② 不登校児童生徒数と（上段）と1,000人当たりの不登校児童生徒数（下段）

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
小学校	742	747	667	770	812	942
1,000人当たり	2.7	2.8	2.5	3.0	3.2	3.8
中学校	3,376	3,254	3,073	3,255	3,447	3,653
1,000人当たり	23.9	23.3	22.4	24.2	26.0	27.7
合計	4,118	4,001	3,740	4,025	4,259	4,595
1,000人当たり	10.0	9.8	9.3	10.2	11.0	12.0

(2) 過去4年間の学年別不登校児童生徒数の推移



学年	小学校						中学校		
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年
24年度	30	52	85	132	167	201	731	1,093	1,249
25年度	43	60	86	138	185	258	796	1,175	1,284
26年度	40	63	101	138	198	272	885	1,238	1,324
27年度	61	77	108	172	219	305	978	1,344	1,331

3 不登校の要因

(1) 公立小学校

学校、家庭に係る要因 (区分) 本人に係る要因 (分類)	(a) 分類別 児童数	学校に係る状況								家庭 に係る 状況
		い じ め	ぐ 友 い る 人 じ め 問 題 係 を 除 め く	題 係 教 を 職 員 と の 間 開	学 業 の 不 振	安 進 路 に 係 る 不	不 部 活 動 に 係 る 不	ク ラ ブ 等 活 動 の	題 等 学 を 校 の ぐ き る ま 間 り	
「学校における人間関係」に課題を抱えている。	112	0	69	19	17	2	1	8	9	28
	—	0.0%	61.6%	17.0%	15.2%	1.8%	0.9%	7.1%	8.0%	25.0%
	11.9%	0.0%	34.0%	34.5%	10.4%	18.2%	50.0%	26.7%	13.8%	4.7%
「あそび・非行」の傾向がある。	13	0	0	0	1	0	0	1	0	8
	—	0.0%	0.0%	0.0%	7.7%	0.0%	0.0%	7.7%	0.0%	61.5%
	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%	3.3%	0.0%	1.4%
「無気力」の傾向がある。	270	0	25	7	59	2	0	8	5	216
	—	0.0%	9.3%	2.6%	21.9%	0.7%	0.0%	3.0%	1.9%	80.0%
	28.7%	0.0%	12.3%	12.7%	36.0%	18.2%	0.0%	26.7%	7.7%	36.5%
「不安」の傾向がある。	285	0	93	25	56	7	1	9	35	136
	—	0.0%	32.6%	8.8%	19.6%	2.5%	0.4%	3.2%	12.3%	47.7%
	30.3%	0.0%	45.8%	45.5%	34.1%	63.6%	50.0%	30.0%	53.8%	23.0%
「その他」	262	0	16	4	31	0	0	4	16	203
	—	0.0%	6.1%	1.5%	11.8%	0.0%	0.0%	1.5%	6.1%	77.5%
	27.8%	0.0%	7.9%	7.3%	18.9%	0.0%	0.0%	13.3%	24.6%	34.3%
計(b)	942	0	203	55	164	11	2	30	65	591
	100.0%	0.0%	21.5%	5.8%	17.4%	1.2%	0.2%	3.2%	6.9%	62.7%

(注1) 「本人に係る要因(分類)」については、「長期欠席者の状況」で「不登校」と回答した児童生徒全員につき、主たる要因一つを選択。二つ以上の要因があり、いずれが主であるかを決め難い場合は、分類欄のより上段のものから選択。

(注2) 「学校、家庭に係る要因(区分)」については、複数回答可。「本人に係る要因(分類)」で回答した要因の理由として考えられるものを「学校に係る状況」「家庭に係る状況」より全て選択。なお、学校及び家庭に係る状況に当てはまるものがない場合は、回答していない。

(注3) 「家庭に係る状況」とは、家庭の生活環境の急激な変化、親子関係をめぐる問題、家庭内の不和等が該当する。

(注4) 中段は、各区分における分類別児童生徒数(a)に対する割合。下段は、各区分における「学校、家庭に係る要因(区分)」の「計(b)」に対する割合。

(2) 公立中学校

学校、家庭に係る要因 (区分) 本人に係る要因 (分類)	(a) 分類別 生徒数	学校に係る状況								家庭 に係る 状況
		い じ め	ぐ 友 い る 人 じ め 問 題 係 を 除 め く	題 係 教 を 職 員 と の 間 開	学 業 の 不 振	安 進 路 に 係 る 不	不 部 活 動 に 係 る 不	ク ラ ブ 等 活 動 の	題 等 学 を 校 の ぐ き る ま 間 り	
「学校における人間関係」に課題を抱えている。	800	1	560	48	112	17	21	19	61	116
	—	0.1%	70.0%	6.0%	14.0%	2.1%	2.6%	2.4%	7.6%	14.5%
	21.9%	100.0%	47.3%	47.5%	13.1%	10.2%	23.6%	15.2%	19.9%	9.1%
「あそび・非行」の傾向がある。	166	0	22	8	39	2	1	49	4	70
	—	0.0%	13.3%	4.8%	23.5%	1.2%	0.6%	29.5%	2.4%	42.2%
	4.5%	0.0%	1.9%	7.9%	4.6%	1.2%	1.1%	39.2%	1.3%	5.5%
「無気力」の傾向がある。	1,050	0	149	16	387	43	25	30	64	460
	—	0.0%	14.2%	1.5%	36.9%	4.1%	2.4%	2.9%	6.1%	43.8%
	28.7%	0.0%	12.6%	15.8%	45.4%	25.7%	28.1%	24.0%	20.8%	36.1%
「不安」の傾向がある。	930	0	356	23	214	87	30	11	115	263
	—	0.0%	38.3%	2.5%	23.0%	9.4%	3.2%	1.2%	12.4%	28.3%
	25.5%	0.0%	30.1%	22.8%	25.1%	52.1%	33.7%	8.8%	37.5%	20.6%
「その他」	707	0	96	6	101	18	12	16	63	365
	—	0.0%	13.6%	0.8%	14.3%	2.5%	1.7%	2.3%	8.9%	51.6%
	19.4%	0.0%	8.1%	5.9%	11.8%	10.8%	13.5%	12.8%	20.5%	28.6%
計(b)	3,653	1	1,183	101	853	167	89	125	307	1,274
	100.0%	0.0%	32.4%	2.8%	23.4%	4.6%	2.4%	3.4%	8.4%	34.9%

【割合の計算例】 中段： $\frac{365}{707} \times 100 = 51.6\%$ ←
下段： $\frac{365}{1274} \times 100 = 28.6\%$ ←

(3) 公立小・中学校合計

学校、家庭に係る要因 (区分)	本人に係る要因 (分類)	(a) 分類別 児童生徒数	学校に係る状況								家庭に係る状況
			いじめ	ぐ友い る人 間関 係を 除め く	題係教 を職 め員 ぐる の問 関	学業 の不 振	安進 路に 係る 不	不部 適活 応動 等活 動へ の	題等 を校 め ぐ る ま 問 り	不学入 適進 応転 級編 の入	
「学校における人間関係」に課題を抱えている。		912	1	629	67	129	19	22	27	70	144
		—	0.1%	69.0%	7.3%	14.1%	2.1%	2.4%	3.0%	7.7%	15.8%
		19.8%	100.0%	45.4%	42.9%	12.7%	10.7%	24.2%	17.4%	18.8%	7.7%
「あそび・非行」の傾向がある。		179	0	22	8	40	2	1	50	4	78
		—	0.0%	12.3%	4.5%	22.3%	1.1%	0.6%	27.9%	2.2%	43.6%
		3.9%	0.0%	1.6%	5.1%	3.9%	1.1%	1.1%	32.3%	1.1%	4.2%
「無気力」の傾向がある。		1,320	0	174	23	446	45	25	38	69	676
		—	0.0%	13.2%	1.7%	33.8%	3.4%	1.9%	2.9%	5.2%	51.2%
		28.7%	0.0%	12.6%	14.7%	43.9%	25.3%	27.5%	24.5%	18.5%	36.2%
「不安」の傾向がある。		1,215	0	449	48	270	94	31	20	150	399
		—	0.0%	37.0%	4.0%	22.2%	7.7%	2.6%	1.6%	12.3%	32.8%
		26.4%	0.0%	32.4%	30.8%	26.5%	52.8%	34.1%	12.9%	40.3%	21.4%
「その他」		969	0	112	10	132	18	12	20	79	568
		—	0.0%	11.6%	1.0%	13.6%	1.9%	1.2%	2.1%	8.2%	58.6%
		21.1%	0.0%	8.1%	6.4%	13.0%	10.1%	13.2%	12.9%	21.2%	30.5%
計(b)		4,595	1	1,386	156	1,017	178	91	155	372	1,865
		100.0%	0.0%	30.2%	3.4%	22.1%	3.9%	2.0%	3.4%	8.1%	40.6%

4 不登校児童生徒への指導結果状況

	小学校				中学校				計			
	人数		不登校児童に対する比率		人数		不登校生徒に対する比率		人数		不登校児童生徒に対する比率	
	H27	H26	H27	H26	H27	H26	H27	H26	H27	H26	H27	H26
指導の結果登校する又はできるようになった児童生徒	314	288	33.3%	35.5%	937	1,038	25.7%	30.1%	1,251	1,326	27.2%	31.1%
指導中の児童生徒	628	524	66.7%	64.5%	2,716	2,409	74.3%	69.9%	3,344	2,933	72.8%	68.9%
うち登校に至らないものの好ましい変化が見られるようになった児童生徒	195	141	20.7%	17.4%	773	606	21.2%	17.6%	968	747	21.1%	17.5%
計	942	812			3,653	3,447			4,595	4,259		

公立高等学校の不登校

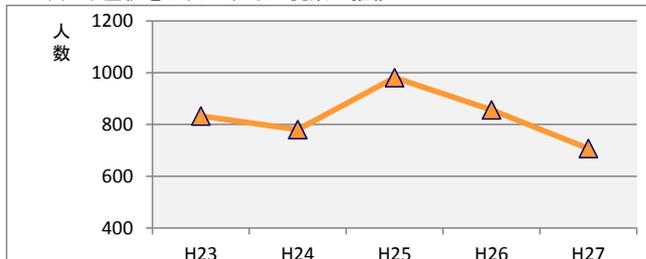
1 公立高等学校における理由別長期欠席者数（上段）と1,000人当たりの理由別長期欠席者数（下段）

年度	在籍数(人)	不登校	経済的理由	病気	その他	計
平成27年度	102,015 (1,000人当たり)	707 6.9	9 0.1	202 2.0	121 1.2	1,039 10.2
平成26年度	104,613 (1,000人当たり)	856 8.2	21 0.2	222 2.1	68 0.7	1,167 11.2

※年間30日以上欠席した者

2 公立高等学校における不登校の状況

(1) 不登校を理由とする生徒数の推移



<前年度との比較>

○人数 ~前年度に比べ、149人減少している。
○1,000人当たり~前年度より、1.3ポイント減少している。

【内訳】

全日制 290人 (3.0) (前年度370人 (3.7))
定時制 417人 (94.0) (前年度486人 (104.2))

(2) 不登校生徒数と（上段）と1,000人当たりの不登校生徒数（下段）

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
不登校生徒数	833	780	981	856	707
1,000人当たり	7.5	7.1	9.2	8.2	6.9

※年間30日以上欠席した者のうち、主たる理由が「不登校」の者の数

※平成16年度から調査を実施

3 学年別不登校生徒数

	不登校生徒数					
	平成27年度			平成26年度		
	人数	1,000人当たり	構成比	人数	1,000人当たり	構成比
第1学年	120	4.8	17.0%	151	5.7	17.6%
第2学年	84	3.3	11.9%	104	4.0	12.1%
第3学年	42	1.6	5.9%	53	1.9	6.2%
第4学年	6	12.9	0.8%	1	1.9	0.1%
単位制	455	18.2	64.4%	547	22.8	63.9%

4 不登校の要因

(1) 全日制と定時制の合計

本人に係る要因(分類)	学校、家庭に係る要因(区分)	(-分類別)生徒数	学校に係る状況								家庭に係る状況
			いじめ	ぐ友い人じ問題関係を除く	題係教を職員ぐとの問	学業の不振	安進路に係る不	不部ク適活ラ応動ブ等活への	題等学を校のめぐるま問	不学入適進、級転時の入	
「学校における人間関係」に課題を抱えている。	99	0	64	11	13	11	3	3	6	11	
	—	0.0%	64.6%	11.1%	13.1%	11.1%	3.0%	3.0%	6.1%	11.1%	
「あそび・非行」の傾向がある。	123	0	4	0	36	53	0	1	1	18	
	—	0.0%	3.3%	0.0%	29.3%	43.1%	0.0%	0.8%	0.8%	14.6%	
「無気力」の傾向がある。	189	0	17	0	41	16	0	3	25	25	
	—	0.0%	9.0%	0.0%	21.7%	8.5%	0.0%	1.6%	13.2%	13.2%	
「不安」の傾向がある。	148	0	39	1	27	24	5	0	31	29	
	—	0.0%	26.4%	0.7%	18.2%	16.2%	3.4%	0.0%	20.9%	19.6%	
「その他」	148	0	6	1	6	11	0	1	17	31	
	—	0.0%	4.1%	0.7%	4.1%	7.4%	0.0%	0.7%	11.5%	20.9%	
計(b)	707	0	130	13	123	115	8	8	80	114	
	—	0.0%	18.4%	1.8%	17.4%	16.3%	1.1%	1.1%	11.3%	16.1%	

(注1) 「本人に係る要因(分類)」については、「長期欠席者の状況」で「不登校」と回答した児童生徒全員につき、主たる要因一つを選択。二つ以上の要因があり、いずれが主であるかを決め難い場合は、分類欄のより上段のものから選択。

(注2) 「学校、家庭に係る要因(区分)」については、複数回答可。「本人に係る要因(分類)」で回答した要因の理由として考えられるものを「学校に係る状況」「家庭に係る状況」より全て選択。なお、学校及び家庭に係る状況に当てはまるものがない場合は、回答していない。

(注3) 「家庭に係る状況」とは、家庭の生活環境の急激な変化、親子関係をめぐる問題、家庭内の不平等。

(注4) 中段は、各区分における分類別児童生徒数(a)に対する割合。下段は、各区分における「学校、家庭に係る要因(区分)」の「計(b)」に対する割合。

(2) 全日制

学校、家庭に係る要因 (区分) 本人に係る要因 (分類)	(a) 分類別生徒数	学校に係る状況								家庭に係る状況
		いじめ	ぐ友い る人 間関 係を 除 め く	題係 教を 職 員 と る の 問 題	学 業 の 不 振	安 進 路 に 係 る 不	不 部 ク ラ ブ 活 動 等 へ の	題 等 学 校 を め ぐ ま 問 り	不 学 入 学 、 適 進 級 編 入	
「学校における人間関係」に課題を抱えている。	72	0	52	10	9	6	3	3	5	10
	—	0.0%	72.2%	13.9%	12.5%	8.3%	4.2%	4.2%	6.9%	13.9%
	24.8%	0.0%	47.7%	83.3%	17.3%	14.3%	37.5%	42.9%	10.0%	13.9%
「あそび・非行」の傾向がある。	5	0	2	0	1	0	0	1	0	4
	—	0.0%	40.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	80.0%
	1.7%	0.0%	1.8%	0.0%	1.9%	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%	5.6%
「無気力」の傾向がある。	65	0	15	0	18	7	0	3	12	17
	—	0.0%	23.1%	0.0%	27.7%	10.8%	0.0%	4.6%	18.5%	26.2%
	22.4%	0.0%	13.8%	0.0%	34.6%	16.7%	0.0%	42.9%	24.0%	23.6%
「不安」の傾向がある。	98	0	36	1	24	20	5	0	18	21
	—	0.0%	36.7%	1.0%	24.5%	20.4%	5.1%	0.0%	18.4%	21.4%
	33.8%	0.0%	33.0%	8.3%	46.2%	47.6%	62.5%	0.0%	36.0%	29.2%
「その他」	50	0	4	1	0	9	0	0	15	20
	—	0.0%	8.0%	2.0%	0.0%	18.0%	0.0%	0.0%	30.0%	40.0%
	17.2%	0.0%	3.7%	8.3%	0.0%	21.4%	0.0%	0.0%	30.0%	27.8%
計(b)	290	0	109	12	52	42	8	7	50	72
	100.0%	0.0%	37.6%	4.1%	17.9%	14.5%	2.8%	2.4%	17.2%	24.8%

(2) 定時制

学校、家庭に係る要因 (区分) 本人に係る要因 (分類)	(a) 分類別生徒数	学校に係る状況								家庭に係る状況
		いじめ	ぐ友い る人 間関 係を 除 め く	題係 教を 職 員 と る の 問 題	学 業 の 不 振	安 進 路 に 係 る 不	不 部 ク ラ ブ 活 動 等 へ の	題 等 学 校 を め ぐ ま 問 り	不 学 入 学 、 適 進 級 編 入	
「学校における人間関係」に課題を抱えている。	27	0	12	1	4	5	0	0	1	1
	—	0.0%	44.4%	3.7%	14.8%	18.5%	0.0%	0.0%	3.7%	3.7%
	6.5%	0.0%	57.1%	100.0%	5.6%	6.8%	0.0%	0.0%	3.3%	2.4%
「あそび・非行」の傾向がある。	118	0	2	0	35	53	0	0	1	14
	—	0.0%	1.7%	0.0%	29.7%	44.9%	0.0%	0.0%	0.8%	11.9%
	28.3%	0.0%	9.5%	0.0%	49.3%	72.6%	0.0%	0.0%	3.3%	33.3%
「無気力」の傾向がある。	124	0	2	0	23	9	0	0	13	8
	—	0.0%	1.6%	0.0%	18.5%	7.3%	0.0%	0.0%	10.5%	6.5%
	29.7%	0.0%	9.5%	0.0%	32.4%	12.3%	0.0%	0.0%	43.3%	19.0%
「不安」の傾向がある。	50	0	3	0	3	4	0	0	13	8
	—	0.0%	6.0%	0.0%	6.0%	8.0%	0.0%	0.0%	26.0%	16.0%
	12.0%	0.0%	14.3%	0.0%	4.2%	5.5%	0.0%	0.0%	43.3%	19.0%
「その他」	98	0	2	0	6	2	0	1	2	11
	—	0.0%	2.0%	0.0%	6.1%	2.0%	0.0%	1.0%	2.0%	11.2%
	23.5%	0.0%	9.5%	0.0%	8.5%	2.7%	0.0%	100.0%	6.7%	26.2%
計(b)	417	0	21	1	71	73	0	1	30	42
	100.0%	0.0%	5.0%	0.2%	17.0%	17.5%	0.0%	0.2%	7.2%	10.1%

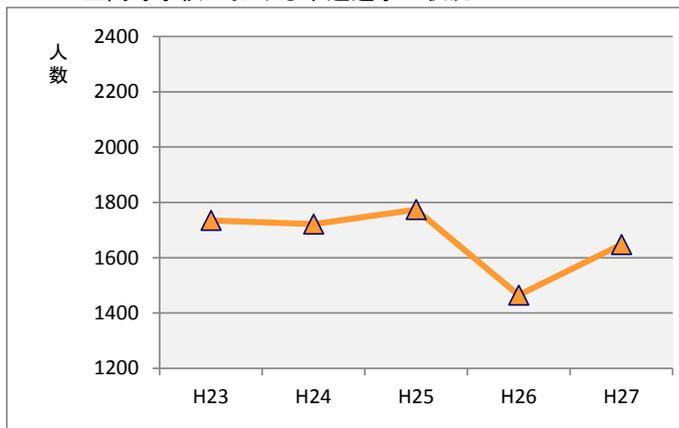
【割合の計算例】 中段: $\frac{11}{98} \times 100 = 11.2\%$

下段: $\frac{11}{42} \times 100 = 26.2\%$

公立高等学校の中途退学

○平成25年度から、「中途退学」については、高等学校通信制課程を調査対象として含めています。

1 公立高等学校における中途退学の状況



<経年変化>

過去9年間、中途退学者数は減少傾向が続いていたが、平成25年度は、調査対象として通信制課程を追加したことから、中途退学者数は前年度に比べ増加した。平成26年度は前年度に比べ減少したが、平成27年度は再び増加に転じた。

<前年度との比較>

○人数 ~前年度に比べ、183人増加している。

○在籍比~前年度に比べ、0.2ポイント増加している。

【内訳】

全日制 931人 (1.0%) (前年度 923人 (0.9%))
 定時制 382人 (8.6%) (前年度 412人 (8.8%))
 通信制 335人 (10.8%) (前年度 130人 (4.1%))

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
中途退学者数	1,735	1,721	1,764	1,465	1,648
中途退学率	1.6%	1.6%	1.6%	1.4%	1.6%

2 学年別中途退学者数

	中途退学者数								
	平成27年度			平成26年度			平成25年度		
	人数	中退率	構成比	人数	中退率	構成比	人数	中退率	構成比
第1学年	746	2.9%	45.3%	586	2.2%	40.0%	710	2.6%	40.2%
第2学年	356	1.4%	21.6%	320	1.2%	21.8%	399	1.4%	22.6%
第3学年	235	0.9%	14.3%	130	0.5%	8.9%	186	0.7%	10.5%
第4学年	45	3.8%	2.7%	11	2.1%	0.8%	22	3.4%	1.2%
単位制	266	1.0%	16.1%	418	1.5%	28.5%	447	1.7%	25.3%

3 中途退学理由（8項目の主たる理由から選び回答）

順位	中途退学理由					
	平成27年度		平成26年度		平成25年度	
①	進路変更	34.7%	進路変更	55.8%	進路変更	47.6%
②	学校生活・学業不適應	32.3%	学校生活・学業不適應	27.4%	学校生活・学業不適應	31.2%
③	その他の理由	13.9%	家庭の事情	4.6%	病気が死亡	5.2%
④	病気が死亡	5.6%	学業不振	3.8%	学業不振	4.6%
⑤	問題行動等	5.5%	病気が死亡	3.8%	家庭の事情	4.3%
⑥	家庭の事情	4.4%	問題行動等	2.9%	問題行動等	3.6%
⑦	学業不振	3.3%	その他の理由	1.2%	その他の理由	2.8%
⑧	経済的理由	0.3%	経済的理由	0.5%	経済的理由	0.7%